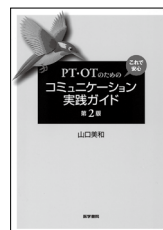


山口美和（著）

PT・OTのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版

大 黒 一 司

（東北文化学園大学，作業療法士）



学生のコミュニケーション能力向上は人間性を高める教育でもある

「この病気にならなければ、あなたに出会えなかった」、「あなたと一緒に仕事ができて嬉しい」と言われたときに感じる心地よさや嬉しくなる気持ちを、多くの方が経験していると思う。対象者が心からそんな言葉を言えるのは、運動機能や日常生活活動が改善しただけでなく、療法士とのかかわりにおいて信頼できる相手と喜びを感じるコミュニケーションができていからであろうと思う。本書にはPT、OTを目指す学生が、対象者、家族、臨床実習指導者、医療スタッフとかかわるうえで対人援助職として、また人として成長することを願う著者の思いが込められている。

本書はPT、OTを目指す学生だけでなく、新人、若手のPT、OTやPT、OTの養成教育に携わる養成校の教員と臨床実習指導者、さらには保健、医療、福祉分野で学ぶ学生および対人援助職に携わる方に推薦できるものである。著者は本書初版において「“自分は本当にPT・OTになれるのだろうか？”“実は自分はこの職業にむいていないのではないのか？”」との学生に向けたメッセージから、第2版では「“この病気にならなければ、あなたに出会えなかった”“あなたと一緒に仕事が

できて嬉しい”と言われる人間になるために」としている。これは自己を成長させ人間性を高めてほしいと思う著者の強いメッセージのように感じる。

第2版には初版にはなかった内容として、著者の講義や講演を受講した学生や現職者の声を反映した「感情管理」の項目が追加されている。また「言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション」の項目が追加されたことで、その後の「みる力」、「きく力」の内容につながり、とても理解しやすくなっている。特に傾聴することの重要性を強調している。

一見すると学生の臨床実習におけるコミュニケーションスキルのマニュアル本のようなものであるが、理論的背景を述べながら、実践の場においてどのようにコミュニケーションを取ればかかわる人たちと良好な関係が構築できるのかを示しており、実践する者が考えながら活用できるようになっている。

また本書は「学内編：医療者になるための準備—自分づくり」、 「臨床編：どんな相手でもOKのプロを目指そう」の2編の構成となっている。学内編では自分を理解する、コミュニケーション力を育む、そして自律した自分になるための自己管理、自分の使命等を平易に説明している。臨床実習のためや臨床家になるために必要な準備が懇切丁寧に述べられてお

り、対人援助職として仕事をするために、人としての成長を願う著者の思いを感じる。そして臨床編は、社会人としてのマナーである挨拶、電話のかけ方、お礼状の書き方について、順を追って、手本を載せ、わかりやすく書かれている。また臨床で役立つコミュニケーションスキルとして、臨床実習指導者の声を含め、具体的な例を提示している。学生を臨床実習に送り出す前に指導する内容として、臨床実習前のオリエンテーションにも活用できるものである。

本書を養成校で活用することを薦めたい。節ごとに臨床実習に向けてのチェック表があり、学生が準備状況を確認し課題を見つけることができる。2章以降はワークが多くあり、巻末には利用できるワークシートがある。講義・演習のガイドとして効果的な授業を展開できる。これは初版を教科書として使用した者の意見である。また、本書の右頁上段の「自分を成長させる言葉」を読むだけでも楽しみにであり、章の終わりにある「論語を学んで人間を磨こう」とともに人間性を高めるうえで一読に値すると思う。

〔B5判 240頁 2,800円＋税〕
医学書院 刊
☎ 03-3817-5650